

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-301340

(43)Date of publication of application : 19.11.1996

(51)Int.Cl.

B65D 71/28

(21)Application number : 07-132726

(71)Applicant : NAGASA KAKO KK

(22)Date of filing : 02.05.1995

(72)Inventor : NAGAOKA KUNJI

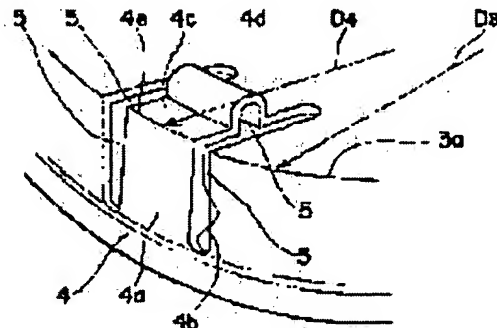
(54) CAN HANGER

(57)Abstract:

PURPOSE: To make a single can holder applicable to cans different in size by a method wherein two streaks of cuts that run from the ridgeline between the top face and a sidewall toward the top face and sidewall are provided at two or more positions along the circumference of a fitting part to form separate parts.

CONSTITUTION: A stopper 4 has a separate part that is formed by two streaks of cuts 5 that start from a ridgeline 3a between the top face and a sidewall of a fitting part 3 and stretch toward both the top face and the sidewall. A protrusion 4b is formed on the inner face of a sidewall 4a of the separate part, and a bent part 4d is formed on a top face 4c of the

separate part. The diameter D4 of an imaginary circle that connects ridgelines 4e between top faces 4c and the sidewalls 4a of the separate parts is a little smaller than the diameter D3 of an imaginary circle that connects the ridgelines 3a between the top face and the sidewall of the fitting part 3. Therefore, the bent parts 4d of the stoppers 4 elastically expand and deform and the sidewalls 4a elastically expand outward and deform, so that cans different in size of head can be held by the stoppers 4.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 15.03.1996

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 2758146

[Date of registration] 13.03.1998

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right] 13.03.2001

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-301340

(43) 公開日 平成8年(1996)11月19日

(51) Int.Cl.⁶

B 6 5 D 71/28

識別記号

庁内整理番号

F I

B 6 5 D 71/00

技術表示箇所

D

審査請求 有 請求項の数 2 F D (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平7-132726

(22) 出願日 平成7年(1995)5月2日

(71) 出願人 591150845

永佐化工株式会社

福岡県福岡市東区箱崎ふ頭5丁目9番27号

(72) 発明者 永岡 訓二

福岡市東区青葉3丁目27番8号

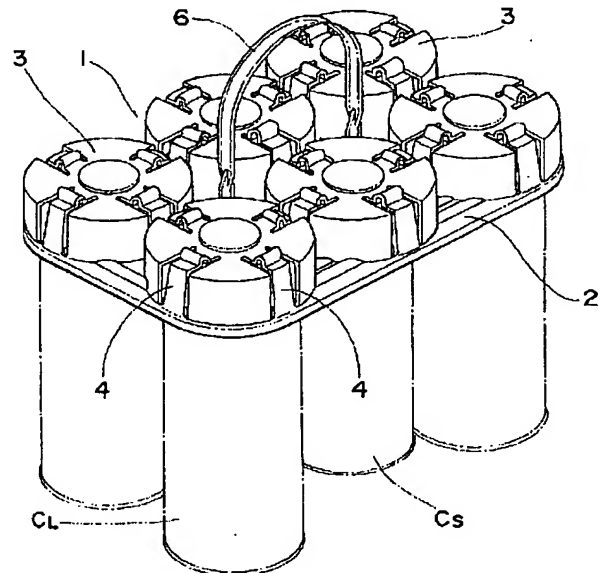
(74) 代理人 弁理士 加藤 久

(54) 【発明の名称】 缶吊り下げ具

(57) 【要約】

【構成】 合成樹脂製の本体2に缶の上部形状に対応したキャップ状の嵌合部3を複数箇所に形成し、この嵌合部3の周方向の複数箇所に、嵌合部3の頂面と周壁の稜線3aから頂面側と周壁側に向かう2条の切り欠き5によって分離部分を形成し、同分離部分の周壁部4aの内面に突起4bを形成し、かつ、同分離部分の頂面部4cに周方向に沿って曲げた曲げ部4dを形成した缶吊り下げ具。

【効果】 本体に缶の上部形状に対応したキャップ状の嵌合部を複数箇所に形成した缶吊り下げ具の簡便性を維持したうえで、係止部の弾性変形を利用して、一つの吊り下げ具を異なるサイズの缶に適用することができる。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 合成樹脂製の本体に缶の上部形状に対応したキャップ状の嵌合部を複数箇所に形成した缶吊り下げ具であって、前記嵌合部の周方向の複数箇所に、嵌合部の頂面と周壁の稜線から頂面側と周壁側に向かう 2 条の切り欠きによって分離部分を形成し、同分離部分の周壁部の内面に突起を形成し、かつ、同分離部分の頂面部に周方向に沿って曲げた曲げ部を形成したことを特徴とする缶吊り下げ具。

【請求項 2】 前記分離部分の頂面部と周壁部の稜線を結ぶ仮想円の径を、嵌合部の頂面と周壁の稜線を結ぶ仮想円の径よりも小さく形成した請求項 1 記載の缶吊り下げ具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、缶入り飲料、缶詰などの缶の持ち運びに使用する吊り下げ具に関する。

【0002】

【従来の技術】缶入りのジュース、ビール、コーヒーなどや缶詰は、小売店においては 1 個毎のパラ売りまたは一定個数の包装状態で売られているのが普通である。一般の消費者が小売店でこれらの缶を購入し、持ち帰るにあたり、包装状態のものを購入した場合は、そのままの状態でも格別の不便もなく持ち運ぶことができるが、パラ売りのものを購入した場合、とくに数本程度の缶を購入した場合は、持ち運びに不便をとまう。

【0003】たとえば、パラ売りの缶ビールを購入した場合、缶を 1 個ずつショッピング袋に入れて持ち帰ることになるが、持ち帰る際に、ショッピング袋の中で缶どうしが重なり、ぶつかり合って、手で下げて運ぶのが不安定である。

【0004】このような持ち運びの不便さを解消するものとして、数本程度の缶を収納する持ち運び用の包装用容器もあるが、この容器は全体的に嵩張り、容器を使用しないときの保管や取扱いが面倒である。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】上記のような問題を解消するものとして、本出願人は、図 6 および図 7 に示すような吊り下げ具を開発した。この吊り下げ具 11 は、弾性に富む合成樹脂材を一体成形したもので、図 6 に示すように、板状の本体 12 に缶 C の上部形状に対応したキャップ状の嵌合部 13 を複数箇所に形成し、この嵌合部 13 の裏面側の凹部 13a に缶 C の上部を嵌め込み、缶 C を吊り下げた状態で持ち運ぶものである。

【0006】嵌合部 13 の裏面側は、図 6 の縦断面図である図 7 に示すように、凹部 13a の内周壁に複数個の係止用突起 13b を形成し、嵌合部 13 を缶 C の上部に押し付けたときに、この突起 13b が弾性変形して缶 C 上端の縁の直下に嵌まり込み、把手 14 を持って本体 12 を持ち上げたときに嵌合部 13 が缶 C から外れること

なく、缶 C を持ち上げることができるようになっている。

【0007】吊り下げ具 11 は、嵌合部 13 を缶 C の上部に押し付けるだけで簡単に缶 C への装着ができ、また取り外すときは、本体 12 と嵌合部 13 を弾性を利用して曲げながら缶 C から引き離すだけで簡単に外れるので、缶 C への着脱の手間は僅かである。また、持ち運びの際に缶 C どうしがぶつかり合うこともない。

【0008】吊り下げ具 11 を使用しないときは、把手 14 を一点鎖線で示すように倒して、把手 14 の円弧部分を嵌合部 13 に掛けた状態で係止することができるので、保管や取扱いも容易である。

【0009】この吊り下げ具 11 は、ジュース、ビール、コーヒーなどの缶飲料や缶詰の商品とは別の流通経路で販売し、消費者が必要なときに利用するか、あるいは、食品店や酒店などの小売店で準備しておき、パラ売り商品の購入者に対して無料あるいは有料で提供するようにして使用することができる。

【0010】ところが、上記の吊り下げ具 11 は、嵌合部 13 の裏面側の突起 13b を、特定の缶の上端サイズに合わせて形成しているので、この吊り下げ具 11 では特定サイズの缶のみしか吊り下げることができない。

【0011】このため、小売店ではサイズ毎に多種類の吊り下げ具を準備しておかなければならず、また、たとえばビール缶とコーヒー缶を 2～3 本ずつ購入した場合、二つの吊り下げ具にビール缶とコーヒー缶を 2～3 本ずつそれぞれ吊り下げて持ち帰らなければならないという不便を生じる。

【0012】本発明が解決すべき課題は、上記の吊り下げ具の簡便性を維持したうえで、一つの吊り下げ具を異なるサイズの缶にも適用できるようにすることにある。

【0013】

【課題を解決するための手段】本発明の缶吊り下げ具は、合成樹脂製の本体に缶の上部形状に対応したキャップ状の嵌合部を複数箇所に形成した缶吊り下げ具であって、前記嵌合部の周方向の複数箇所に、嵌合部の頂面と周壁の稜線から頂面側と周壁側に向かう 2 条の切り欠きによって分離部分を形成し、同分離部分の周壁部の内面に突起を形成し、かつ、同分離部分の頂面部に周方向に沿って曲げた曲げ部を形成したことを特徴とする。

【0014】ここで、前記分離部分の頂面部と周壁部の稜線を結ぶ仮想円の径が、嵌合部の頂面と周壁の稜線を結ぶ仮想円の径よりも小さくなるように形成することが好ましい。

【0015】

【作用】本発明の吊り下げ具においては、切り欠きによって嵌合部から部分的に分離された部分が缶の係止部となる。この係止部の頂面の曲げ部の弾性変形を利用して、異なるサイズの缶を係止することができる。

【0016】嵌合部を缶の上部に押し付けたとき、上端

サイズの小さい缶の場合は、缶上端部が係止部を軽く外向きに押した状態で、缶上端の縁が係止部内面の突起に係止される。上端サイズの大きい缶の場合は、缶上端部が係止部を外向きに強く押し、係止部の頂面の曲げ部が伸びて係止部の周壁部が外方に広がった状態で、缶上端の縁が係止部内面の突起に係止される。係止部は弾性による復元力があるので、缶を取り外した後は元の状態に復元する。

【0017】

【実施例】図1は本発明の実施例である吊り下げ具を示す斜視図、図2は図1の吊り下げ具の嵌合部に形成された係止部の拡大斜視図、図3は図1の吊り下げ具の嵌合部の縦断面図である。

【0018】本実施例の吊り下げ具1は、合成樹脂製の板状本体2の6箇所にキャップ状の嵌合部3を形成し、各嵌合部3の周方向の4箇所に、係止部4を形成したものである。

【0019】係止部4は、嵌合部3の頂面と周壁の稜線3aから頂面側と周壁側に向かう2条の切り欠き5によって分離部分を形成し、この分離部分の周壁部4aの内面に突起4bを形成し、頂面部4cの一部に、周方向に沿って上方向に曲げた曲げ部4dを形成したものである。この周壁部4aの突起4bと頂面部4cの曲げ部4dを形成した分離部分が缶の係止部4となる。嵌合部3の裏面の、係止部4を形成していない範囲は平滑な面をしている。

【0020】係止部4は、4個の各係止部の頂面部4cと周壁部4aの稜線4eを結ぶ仮想円の径D₄が、嵌合部3の頂面と周壁の稜線3aを結ぶ仮想円の径D₃よりもやや小さくなるように形成している。このため、後述するように、嵌合部3を缶に装着するときに係止部4の曲げ部4dが弾性変形により伸びて、周壁部4aが弾性変形して外方に広がることを利用して、上端サイズの異なる缶を係止部4に係止することができる。

【0021】吊り下げ具1は上記のような構成であるので、嵌合部3を缶の上部に押し付けたとき、上端サイズの小さい缶CSの場合は、図4の(a)に示すように、缶CSの上端部が係止部4の周壁部4aを軽く外向きに押した状態で、缶CSの上端の縁が係止部4内面の突起4bに係止される。上端サイズの大きい缶CLの場合は、図4の(b)に示すように、缶CLの上端部が係止部4の周壁部4aを外方に強く押し、係止部4の頂面部4cの曲げ部4dが矢印方向に伸び、係止部4の周壁部4aが外方に広がった状態で、缶CLの上端の縁が係止部4内面の突起4bに係止される。係止部4は弾性による復元力があるので、缶を取り外した後は元の状態に復元する。このようにして、一つの吊り下げ具1で上端サイズの異なる缶CS、CLを吊り下げることができる。

【0022】吊り下げ具1は、嵌合部3を缶CSまたは

CLの上部に押し付けるだけで簡単に缶CSまたはCLへの装着ができ、また取り外すときは、板状本体2と嵌合部3を弾性を利用して曲げながら缶CSまたはCLから引き離すだけで簡単に外れるので、缶CSまたはCLへの着脱の手間は僅かである。また、持ち運びの際に缶どうしがぶつかり合うこともない。

【0023】吊り下げ具1を使用しないときは、把手6を倒して、把手6の円弧部分を嵌合部3に掛けた状態で係止することができるので、保管や取扱いも容易である。

【0024】以上のように本実施例の吊り下げ具1によれば、図6に示した吊り下げ具11の簡便性を維持したうえで、係止部4の弾性変形を利用して、一つの吊り下げ具を異なるサイズの缶に適用することができる。また、各係止部4の頂面部4cと周壁部4aの稜線4eを結ぶ仮想円の径D₄が、嵌合部3の頂面と周壁の稜線3aを結ぶ仮想円の径D₃よりも小さくなるように形成することにより、嵌合部3を缶に装着するときに係止部4の曲げ部4dが弾性変形により伸びて、周壁部4aが外方に弾性変形することを利用して、弾性変形の範囲内で種々のサイズの缶に適用することができる。

【0025】なお、上記実施例においては、本体を板状とし、この板状本体の6箇所に嵌合部を形成することを基本構成としたが、本体は板状に限定されるものではなく、たとえば板状の周囲に垂下部を形成したものでよく、また、嵌合部の数は5個以下あるいは7個以上でもよい。また、本体の平面形状も長方形に限らず、多角形、円形、長円形などとすることができる。

【0026】また、上記実施例においては、係止部の数を4個としたが、係止部の数は4個に限らず、3個または5個以上であってもよい。また、頂面部の曲げ部として一部分を上方に湾曲させた形状としたが、たとえば図5の(a)に示すように、曲げ部は頂面部の全体に形成してもよく、また、曲げ部の形状は湾曲型に限らず、同図の(b)に示すような折り曲げた型でもよく、さらに、曲げ方向は上方に限らず、下方に向けて曲げたもの、あるいは上下方向に繰り返して曲げたものでもよい。要は、曲げ部が弾性変形して周壁部が外方に向けて弾性変形する形状であればよい。

【0027】

【発明の効果】本発明によって以下の効果を奏することができる。

【0028】(1)本発明の吊り下げ具によれば、本体に缶の上部形状に対応したキャップ状の嵌合部を複数箇所に形成した缶吊り下げ具の簡便性を維持したうえで、係止部の弾性変形を利用して、一つの吊り下げ具を異なるサイズの缶に適用することができる。

【0029】(2)各係止部の頂面部と周壁部の稜線を結ぶ仮想円の径が、嵌合部の頂面と周壁の稜線を結ぶ仮想円の径よりも小さくなるように形成することにより、

嵌合部を缶に装着するときに係止部の曲げ部が弾性変形により伸びて、周壁部が外方に弾性変形することを利用して、弾性変形の範囲内で種々のサイズの缶に適用することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明の実施例である吊り下げ具を示す斜視図である。

【図 2】 図 1 の吊り下げ具の嵌合部に形成された係止部の拡大斜視図である。

【図 3】 図 1 の吊り下げ具の嵌合部の縦断面図である。

【図 4】 図 1 の吊り下げ具における異なるサイズの缶の係止状態を示す図である。

【図 5】 係止部に設ける曲げ部の他の形状例を示す図である。

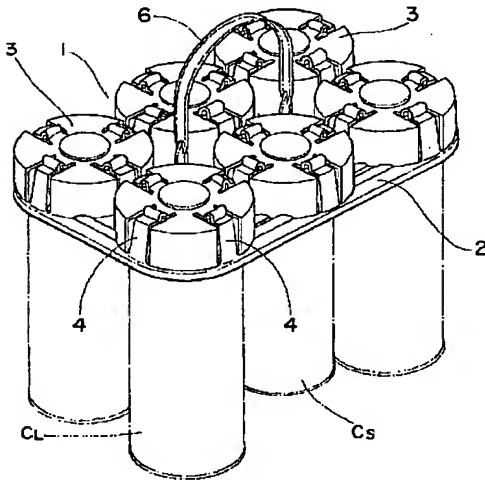
【図 6】 従来の吊り下げ具の例を示す斜視図である。

【図 7】 図 6 の吊り下げ具の縦断面図である。

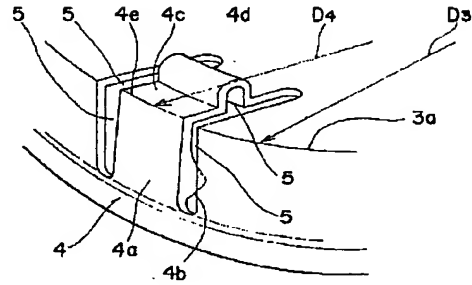
【符号の説明】

- 1 吊り下げ具
- 2 板状本体
- 3 嵌合部
- 3 a, 4 e 稜線
- 3 b, 3 c 突起
- 4 係止部（分離部分）
- 4 a 周壁部
- 4 b 突起
- 4 c 頂面部
- 4 d 曲げ部
- 5 切り欠き
- 6 把手
- CL, Cs 缶

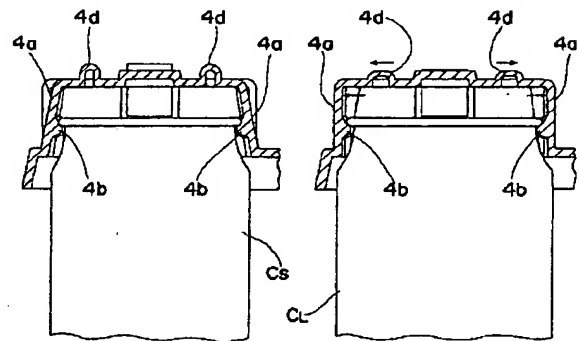
【図 1】



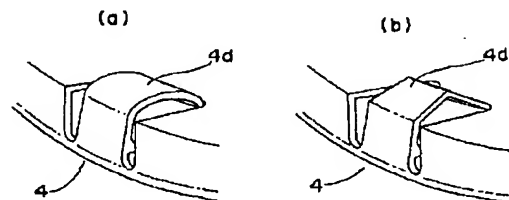
【図 2】



【図 4】



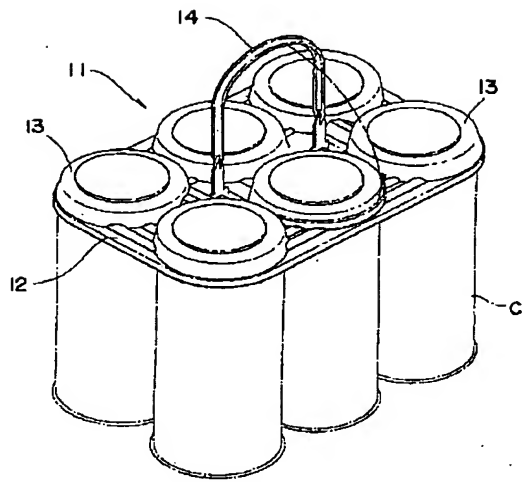
【図 5】



(5)

特開平 8 - 3 0 1 3 4 0

【図 6】



【図 7】

